

申請団体のデータ（グループ名簿、助成金要望額内訳は割愛しています）

ものづくりクラブ「チャームシルク」 2年目

グループ概要

結成年月 H27. 8
構成員数（うち 50 歳以上） 7(7) 名
活動市町村 松本市
代表者 佐藤 陽子
担当者 佐藤 陽子

【事業名】

ものづくりクラブ「チャームシルク」

【事業の種類】

中高年グループが主体となった地域づくり・社会貢献活動

【これまでの活動内容】

これまで約 1 年間の活動

1. トートバッグなどの作品の制作活動：計 8 回
帯や着物をほどく→作品の型紙を作成する→型紙に応じて帯など布を裁断する→ミシンで縫製する→マグネットボタンなど付属品を手縫いで取り付ける→仕上げアイロンをかける
2. 値段つけ、包装など出展・販売準備：計 5 回
3. 出展・販売活動：計 6 か所
ぼくらの学校、ねんりんピック、楽市・楽座クラフトマーケット、四賀クラインガルテン、シニア大学文化祭、電機店頭
4. 手芸講習会開催：計 4 回
手芸講師を招いて、リーダー宅にて基本的な技術を学んだ。メンバーは 2 グループに分かれて、同じ内容を 2 回ずつ実施した。
5. 高齢者作品展（塩尻総合文化センター）

【事業の目的】

1. モノづくり作業を通して、メンバー間の関係性をより豊かにする。
2. 手芸講師から縫製の技術を学び、バッグなどの品質を高め、より販売効果の高い作品を目指す。
3. 作業所や福祉施設に出向き、縫製作業などを支援する。
4. 作品で得られた収益金は交通遺児育英会、福祉施設、共同作業所、ユニセフ募金などに寄附をして社会貢献を図る。

【今年度の事業計画】

個々人の作業レベルに応じた手作業を行い、制作した作品を出展・販売し、その売り上げの一部を寄附する。

1. 事業内容
 - ①手芸講師に縫製の指導を受ける
昨年度との違いはグラニーバッグなど、より高度な技術の指導を受ける。
 - ②作製する作品の種類を増やし、消費者の購買意欲を高める。
昨年度は主にトートバッグだったが、今年度はショルダーバッグ、グラニーバッグ、ポーチ、レッスン用バッグなど、多種類の作品を製作する。
 - ③出展・販売の場所を拡大する
前年度はシニア大学、楽市楽座、ねんりんピック、ぼくらの学校などだったが、商業ベースのスペースを借りて販売場所の拡大を図る。
 - ④新メンバーの勧誘方法を検討する。
2. 実施方法／実施回数
前年度は活動を月 1 回の頻度と取り決めたが、出展・販売にまつわる作業に追われ多忙を極めた。今年度はその反省を生かして、メンバーの気力・体力に合わせた活動を地道に実践する。
 - ①原則として活動は月 1 回、9:30～15:00
 - ②活動場所は長野県合同庁舎会議室及び出展・販売会場

【将来計画】

＜3 年目の事業計画＞

1. 制作活動を継続する
2. 作業所や福祉施設に出向き、縫製作業などを支援する
3. 前年度の出展・販売方法に加えて、商業ベースの店頭など出展・販売場所を検討し、売り上げの向上を図る
4. 社会貢献を具体的に検討し、寄付行為につなげる
5. 組織づくりを検討し、クラブの充実や活動の場を広げる

＜将来の事業計画＞

1. グループメンバーの平均年齢や生活状況を念頭におきながら、心身の健康状態を維持し、何らかの社会貢献ができることを最大の目標に、無理をしない活動を継続する。
2. 3 年間の実績に応じて、将来の事業計画を検討する。

【事業実施により地域に期待される効果】

1. 本活動は、手先の細やかな作業や知的作業を要求されるため、グループメンバーの心身の健康づくりに役立つこと
2. 帯の寄付や自作の手芸品の無償提供など、提供者との思いがけない交流が生まれたこと。
3. 作品をフリーマーケットなどに出品する際、来店した地域住民に古帯や着物の活用方法に興味関心を持ってもらうことができたこと
4. 将来的には、作業所や福祉施設へ出向くことで、施設利用者や職員との交流が図られること
5. 作業所などへの寄付行為や縫製作業などを通して、グループメンバーと地域社会との交流が豊かになること

【平成 29 年度当該事業費の内訳】

助成金要望額	80,000 円
助成金以外の収入	79,000 円
総事業費	159,000 円